

「二人の主人」 ～あなたの頼りは～

ピリピ3:4～21,
マタイ6:19～34

『キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標をみざして一心に走っているのです。』（ピリピ3:14）パウロの目指している道の中心はいつも神の栄冠を得る為でした。そしてパウロはこうも言っています。『彼らの最後は滅びです。彼らの神は彼らの欲望であり、彼らの栄光は彼ら自身の恥なのです。彼らの思いは地上のことだけです。』（ピリピ3:19）今日の聖書の箇所ではパウロは何が言いたいのか。パウロはイエス様を知るまでも自分の生きてきた道のりは素晴らしいと思っていました。しかし、イエス様に出会ってこれまで得た知識や立派さなど「ちりあくた」であると知りました。でも世の中の人たちはまだその無意味なものを求め大切にしている。それでよいのかと、パウロは私たちに問いかけています。そしてパウロと同じ事をイエス様が語っているのがマタイ6:19～34です。「神の義とその国とをまず第一に求めなさい。そうすればそれに加えてこれらのものはすべて与えられます。」（マタイ6:33）自分は自分のために地上に宝を積んできた。でも天に宝をつむことが素晴らしいと思った。だからパウロは神の義とその国とをまず第一に求めているのです。私達は今どんな生き方をしているのでしょうか。私達は主の御言葉が日を追う事にぼんやりして忘れてしまったりします。なぜ忘れてしまうのでしょうか。それは私たちの中に「二人の主人」がいるからです。『だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。』（マタイ6:24）私達の全てを満たして下さる神様を信じていながら、自分の生活や地位など自己中心な思いに捕らわれていると、この御言葉のように一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするようになり、気づかないうちに神の義とその国とを第一に求められなくなります。その状態が神様とそれ以外にもう一人の主人にしたがっている事であり、聖書では二人の主人に仕えることはできないと言っています。今の私達の生活はどうでしょうか。神様以外にもう一人の主人に仕えるような事になってはいないでしょうか。『大きな家には、金や銀の器だけでなく、木や土の器もあります。また、ある物は尊いことに、ある物は卑しいことに用います。』（Ⅱテモテ2:20）ここでの「大きな家」とは「任されるもの」を示しています。そして「器」は「人」を指しています。神様はあなたがしっかり治めるものになるとあなた自身がきちんとあなた自身を用いるようになっていって、たくさんのものを任されるとそれぞれのものをどう使うかが大切になってきます。たくさんのことをまかされていてもそれを悪いことに使えば全て悪くなってしまふし、尊いことに用いるなら全てが良いものになります。今のあなたはどうか。自分を尊いことに用いていますか。それとも卑しいことに用いていますか？イエス・キリストと共に死ぬことをえらんだのなら、まだ欲の中で執着することは選ばないでしょう。しかし、キリストに従うといいながら、忍耐もせず努力もせず呑むようなことをすると、卑しいことに自分を置いてしまうのです。イエス・キリストを一人の主人と思っただけでも日常生活の中で何かに執着していると二人の主人に仕え、一方では正しいことに用い、他方ではふさわしくないところで用いてしまうのです。自分はそうではないと思っただけでも類似していることは多々あるのです。だからこそ主を頼りに生きるために**①捕らわれからの解放**。今、何に捕らわれているでしょう。「捕らわれている」とはパウロのように素晴らしいと思える過去でも、あまり良くなかった過去でもどちらも結果は同じです。捕らわれの根源は「自分」です。それは悪魔ではありません。しかし、捕らわれた結果、罪が生まれ悪魔に捕らわれる事になるのです。捕らわれているのは私達の自己中心のゆえなのです。アダムとイヴが悪魔にそそのかされた時、神の他にもう一人主人になってくれそうな人が現れたから、アダムとイヴは悪魔の声に従ってしまいました。悪魔の手口は非常に巧妙です。今のあなたは過去に捕らわれているだけかもしれませんが、悪魔の最終的な目的は神様の他に主人（悪魔）を作る事です。あなたは天国の国籍があるのに悪魔の国に引き込まれていないでしょうか。自分の会話や考えが「自分」につながっていないかチェックしてみてください。もし、思いの行き着く所が「自分」になっているのなら気をつけて下さい。それがもうすでに2人の主人なのです。神様はあなたの事をいつも見て何でも理解して下さっています。その事を信じて下さい。悪い心に捕らわれないで下さい。捕らわれていると、いつも過去の自分に照らし合わせて考えるようになります。そうすると神様の目で見られなくなります。これが「捕らわれ」です。捕らわれから解放されましょう。**②執着からの解放**（ヘブル13:5～8）今あなたは何か執着していませんか？地位、名誉、お金、家族、色々あると思います。「いのちを得ようとするものは失い、いのちを失うものはそれを得る」執着しはじめるとそれを失ってしまう過程に入ってしまう。執着しないように自分の考えを変えましょう。捕らわれることと執着はよく似ています。捨てられないことだけが執着ではありません。何かがあるとあなたの頭の中にすぐ浮かんでくるものも執着です。**③心配からの解放** 執着すると心配が出てきます。今あなたは何に心配していますか？そしてまさに、あなたの心配していることがあなたの主人なのです。神とその義を第一にさせない理由は何でしょう。捕らわれ、執着しているもの、そのバロメーターが心配なのです。私達が執着すべきはイエス様です。与えられているものを失わない為に教会へ行く、またお祈りをするというのではなく、私達の考えや行動の全てが「イエス様が好きだから」という気持ちであれば、おのずと仕えるべき主人に仕える事ができるのではないのでしょうか。